（別紙4）　　　平成　25　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1870100953		
法人名	医療法人　冨永病院		
事業所名	冨永グループホーム		
所在地	福井県福井市西木田3丁目5番13号		
自己評価作成日	平成25年7月10日	評価結果市町村受理日	平成25年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=1870100953-00&PrefCd=18&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530－0041　大阪市北区天神橋2丁目4番17号　千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体が病院で有り、健康管理として定期受診や具合いが悪い時受診介助で早期発見・治療に努め、安心・安全に過ごせるよう努めています。身体面として、出来る事はなるべく声かけでしていただき、体操（嚥下体操含む）を行い、リハビリ希望の方は病院へ送迎介助実施し、維持・低下防止を図っています。精神面として、一人ひとりのペースでゆったりと過ごせるように観察・見守りを行い、楽しみ事（歌の会、色塗り、散歩等）提供で日常生活の中で自然に維持・向上するよう取り組んでいます。ご家族の面会時は必ず会話を行い、情報交換に努めています。4階建てのアートセンターは、3階でグループホーム、4階で音楽教室を開いており、地域の方々との交流も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当該事業所は病院が母体となっており、利用者の定期受診には看護師が付き添い、医師と直接連携を図っており緊急時には医師の指示を仰ぎながら迅速な対応が成されています。地域社会への貢献を理念に謳い、事業所のスペースを地域のリズム体操やコーラスグループ、絵画教室等のサークルに提供したり、そのサークルメンバーと一緒にクリスマス会を行う等交流を図っています。また地域の春、秋祭りへの参加や、近隣で飼われている犬と触れ合ったり、歌やギター演奏等のボランティアの訪問など地域との良好な関係が築かれています。職員は利用者と密に関わり、介護計画についてもチームで取り組めるよう新たに書式を考案し全職員がモニタリングを行うと共に話し合う機会を設け介護計画に繋げています。また心身の機能低下を防ぐため、運動や嚥下体操に日々取り組んでいます。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス時その人らしく暮らす事について常に話し合い事業所独自の理念を作っている	地域社会への貢献、生活自立能力を引き出すケア、利用者の尊厳を守るプランの実施等の思いを盛り込み事業所独自の理念を作成しホールに掲示しています。職員は理念を念頭に置き実践に向けて取り組めるよう随時カンファレンスで話し合う機会を持っています。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達と挨拶を交わしたり、地域の方々にセンターを開放し使用して頂いたりしている	自治会に加入し日々の散歩時では近所の方と挨拶を交わし、地域の春、秋祭りに参加するなど多くの交流があります。また、歌やギターなどのボランティアの来訪や事業所の4階のスペースにて地域のリズム体操やコーラスグループ、絵画教室等のサークルが行われており、そのメンバーと利用者が合同でクリスマス会を行うなど地域の方との関わりが深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの近隣の方で病院へ行こうとして困っている方等がおられると手助けをしている		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告やサービスの実際等について、報告や話し合いを行ない、サービスの向上に努めている	会議は家族や公民館長、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加の下、隔月に開催し、ホームの活動状況や行事の報告等を行い、参加者から多くの意見をもらっています。アニマルセラピーの提案があり、実際に利用者と犬が触れ合う機会を設けるなど出された意見は検討しサービス等に反映するよう努めています。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員や包括支援センターと連携をとり現状をお伝えし協力関係をとっている	主に法人の担当者が制度上のことも含めて関わりを持っています。市から研修会等の案内が届き参加する中で意見交換をするなど交流を図っています。また月１回介護相談員の来訪があり情報交換を行っています。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入り口の施錠はやむをえずしているが、一人一人に対して身体拘束はせずに、見守り・声かけ・介助に努めている	身体拘束に繋がるようなことがあればその都度話し合ったり、事例を挙げて検討するなど拘束のないケアに努めています。行政からの指導に従い玄関、フロアの入り口は施錠していますが、家族にも説明を行い、外に出たい様子が見られた場合は、話しをしたり花の水やりなどを一緒に行うなど、閉塞感を感じないケアを心がけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員同士気をつけあい虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解に努める為、話す機会を持つよう心がけている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際内容について説明し確認をとり理解してもらっている。疑問点や不明点は、施設長、ケアマネジャーが説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や御家族からの意見や要望は日頃から傾聴に努め、運営に生かすようにしている	主に家族の面会時に意見や要望を聞くように努め、利用料の支払いやフロア入口の開錠について等、多くの要望があり、その都度職員間で検討し意見を反映させるよう努めています。内容によっては個々の家族に対応策を報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞いて下さり、反映させている	管理者やケアマネジャーは職員が意見を言いやすい雰囲気りを心掛け、カンファレンスや日々の業務の中で意見や提案を聞いています。業務改善やレクリエーションに関することなどの提案があり、職員間で話し合い、今までと異なった方法でのレクリエーションの実施に向けて取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況等を把握し、各自が向上心を持って働けるよう声かけや環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、研修の機会をすすめている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の場で同業者と交流を持っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人の希望や不安に思っている事等を傾聴し、本人の安心を確保する為の関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族への聞き取りを充分に行ない、信頼関係づくりを行なっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族への聞き取り、本人の状態観察聞き取りをし今までの状況を把握し、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	話しやすい状態をつくり、家庭的な環境のもと人生の先輩として敬い暮らしを共にする関係に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と普段からよく会話を行ない、共に本人にとって良い方法について話し合い支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自室内に家で使用していた馴染みの物を置き、友人知人の面会もすすめている	友人や知人の訪問があり、お茶を出したり情報交換をしながら話が弾むよう支援するなど、今までの関係が途切れないよう支援に努めています。また家族の送迎で毎週自宅に帰られる方の時間調整をしたり、墓参りなど利用者の思いを家族に伝える等の支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日課の中で集まる時間づくりを持ち、利用者同士が自然と関わりを多く持てるよう努めている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の病院に入院されても、継続的に本人の様子をみて声かけしたり、御家族にお会いできた時は挨拶・話をしている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を本人に聞いて思いにそえるよう対応に努めている	利用前に本人や家族、以前のサービス事業所等から生活歴や家族構成などの情報や意向等を聞き、記録に残し職員間で共有しています。利用後は日々の会話や表情等から知り得たことをケアチェックシートに記入し、カンファレンスで本人本位に話し合い意向の把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族や関係者や本人から生活環境や趣味やどんなサービスを受けてきたか情報を集め把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を観察・見守りし、介護日誌からも把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から聞き取りを行ない、カンファレンスを行ない、思いを反映し必要性の高い項目を入れて介護計画を作成している	利用者や家族の意向、日々の暮らしの中で把握した情報等を基に介護計画を作成しています。日々モニタリングを行い、6ヶ月後に見直しを図り、状況に変化がない場合は1年毎に見直しを行っています。看護師、ケアマネジャー、職員の参加の下担当者会議を開催し、家族の意見や必要に応じて医療情報を反映させ、現状に即した介護計画となるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、よりよい実践や計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を聞き、受け入れ可能な事は話し合いとりくんでいる。又、入院が必要であれば病院が併設されているので、入院できる体制が出来ている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と長年仲良くしていた知人やボランティアの方々の協力をいただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人･御家族とよく話をし、情報交換を行ない、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞いています。全ての利用者が母体の病院をかかりつけ医としており、定期受診はホームの看護師が同行し電話等で家族に受診結果を報告しています。緊急時にかかりつけ医が対応出来ない場合は指示をもらい連携病院へ受診しています。皮膚科、精神科等他の専門科受診は家族が対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護師へ状態について報告・相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、状態について情報交換し報告を密にとり、入院中も様子把握に努めている。退院時も情報交換し、看護要約を貰っている。日頃から状態報告に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予測される段階で、家族と状態や今後について話をし、事業所として出来る事を充分に説明し行なっている。家族、職員、かかりつけ医は終末期ぎりぎりまで医療的治療が必要と見極めてからDr判断し入院してもらっている	入居時に看取り支援についてのホームの方針を説明しています。基本的にホームでの看取りは行わないということを前提に考えており、重度化に伴い出来る限りの支援はしていますが、医療行為が発生した場合は、かかりつけ医の判断で家族と話し合い、入院に繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の病院から看護師が医療行為にみえた時におそわったりDr回診時に注意された事を守って行なっている。病院が母体の為緊急時連絡すれば駆けつけてくれる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	救助袋をとりつけ、消防の方より指導をうけて、常に職員も意識し近隣に協力をお願いしている	年2回消防署立ち合いの下、昼夜間想定で初期消火、避難誘導等の訓練を利用者と共に行っています。地域の方には常々協力依頼の声掛けを行っており、運営推進会議において報告しています。また母体の病院が地域の緊急時の避難場所となっています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時に必ず入る言葉かけや排泄の汚染時他者に気づかれない様にする等誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをおこなっている　　　　　　利用者の話を傾聴し、記録に残している	日々の業務の中でケアマネジャーがプライバシー等について話し、職員への周知に努めています。利用者の居室に入る時は必ず声を掛けることや排泄時の声掛けや対応に留意し、不適切な言動がみられた場合はその都度注意を促すと共に話し合いを行い、プライバシーを損ねないケアに心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表しやすい雰囲気づくりを行ない、利用者が決めた事を否定せず出来る事は実行していただき間違っている時は納得出来るよう説明を行う		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人一人の個性を理解しペースを大切にして、その日の過ごし方は希望にそえるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人がしたいおしゃれは個性で有り、否定せず支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ゆっくり食事が摂れるよう心がけ、声かけ様子観察している。本人の能力をみて出来る範囲で母体の病院から運ばれてきたお粥を器に入れてもらったり、台拭きをしてもらったりしている。声かけし意欲を大切にして関わっている	病院の厨房で作られた食事が届き、利用者はお膳や箸を並べたり、テーブル拭きなど出来ることに携わってもらっています。嫌いなものは代替え食を提供しています。誕生日や敬老の日にはケーキを購入するのも楽しみの一つとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量を毎食チェックし、栄養バランスをとり、水分量も少なめの方には声かけし使用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じた口腔ケアを実施している義歯は寝る前にあずかり、消毒し装着していただく		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に記録し、排泄パターンを職員が把握し、排泄誘導や声かけ見守り等を行ない、自立にむけた支援を行なっている	全利用者の排泄チェック表を基に個々の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導、排泄介助を行っています。トイレでの排泄を基本としていますが、居室にポータブルトイレを設置することにより失敗が少なくなっている方もおり、その方に合わせて自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示に従っている。排便の記録を全員に行ない、便秘しないよう飲食物の工夫、体操等の実施等を行なっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	計画を立てているが利用者の希望も配慮に入れて、ゆったり入浴出来るよう一人入浴で気持ちよく入れるよう支援している	入浴は午後2時から4時の間を基本としていますが、希望があれば午前中の入浴も可能となっています。少なくとも週2回をめどにし、拒否のある場合は声掛けの方法を変えたり、時間を空けるなど工夫をしながら入ってもらっています。こだわりの石鹸を使用している方もあり個々に合わせて気持ち良く入ってもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活スタイルや習慣を把握し、休息をしていただいたり、安心して眠れるよう声かけ支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりが服用している薬について把握しており、心身状態に変化が有る時は病院と連携し支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力をいかした役割を考え、嗜好品やその人が好きな事を行なえるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調等を考えながら天気に応じた衣類等の調整や出かける時の危険性を見極め外出の支援を行なっている。普段行けない所は家族の協力を得て支援している	利用者の体調を考慮しながら気候の良い時は散歩や買い物に出かけています。春は桜の花見外出もあり、利用者の楽しみ事となっています。また、ドライブなど家族の協力を得て家族と共に出かけている利用者もいます。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力にあわせて、お金を所持出来る方には使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員に一声かけてから自由にかけている手紙の希望はないがあれば支援の方向でいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの飾り物や観葉植物、季節の花、季節に応じた入所者の作品を壁に貼る等を行ない、居心地よく過ごせるよう行なっている	壁には多くの絵画やパズル、利用者や職員手作りの作品などが飾られ温かい雰囲気作りがなされています。食堂とリビングコーナーは分けられており、テーブルやソファを随所に配置し、思い思いの場所で自由に寛げるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに椅子とテーブルを置き好きな時間に利用者同士が会話出来るように取り組んでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具等利用者が日々使い慣れた物や好みの物を置いていただき居心地よく過ごせるよう支援している	居室は畳の上にベッドが置かれ希望に応じて布団で休むことも出来ます。洗面台と洋服ダンスが設置され、テレビやタンス、ベッド等が持ち込まれ、家族と相談しながら設えています。また、縫いぐるみや家族の写真を飾ったり、利用者が安心して過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事わかる事を大切に、安全に声かけ、見守りで出来るだけ自立した動きがとれるよう努めている		